



No. 6

令和7年
7月9日すずか幼稚園
第2すずかきしおか幼稚園

子育て支援倶楽部(ボーディ)

本園では、保護者の皆様を対象に「子育て支援倶楽部(ボーディ)」を開催しております。

これは、いろいろな分野の専門の方を講師に招き、各種の講座を開き、保護者の皆様に体験していただくとともに、体験活動を通してコミュニケーションを図っていただくことを目的としております。

本年度は、5月22日(木)に「ヨガ教室」を開催し、心と身体の関わりを大切にしたい「ヨガ」を体験していただきました。また、6月13日(金)には、「己書(おのれしょ)教室」で、己書の基本を知った後に「梅雨」を題材とした作品に取り組んでいただきました。6月27日(月)には、「アーツスキル教室」において、お子さまの写真を基にデッサンの基本を学習していただきました。

本年度初めての取り組みとしては、6月9日(月)に「ベビーヨガ」を開催し、就園前の年齢のお子さまとお母様にヨガを通しての身体の触れ合いを体験していただきました。また、7月7日(月)には、「緑茶教室」で、普段ご家庭で飲んでいただいている「緑茶」をもっと美味しく淹れるにはどんな工夫があるのかを学んでいただきました。

これらの講座は、すべて無料にて学習していただけますし、参加していただいた保護者の皆様には、同じことを体験することによるコミュニケーションを図っていただけたと感じております。

こうした「学び」は、「生涯学習」と呼ばれるもので、人が一生において「いつでも」「どこでも」「自由に」学習機会を選択し、学ぶことができるものとされています。生涯学習のメリットとしては、こうした学習の経験がさらに広がり、「日々の楽しみや生きがいが増える」ことや、同じ学習を経験した人たちにより「新しいコミュニティが形成できる」こと、幅広い分野の知識に触れることで「視野が広がる」こと、皆様にはずいぶん先のことになりますが、「豊かな老後につながる」ことなどがあると思います。

本園にお子さまが在園している期間だけでも、こうした生涯学習の一環をぜひとも経験していただければと思いますし、祖父母の方もご参加いただいても結構です。

なお、今後のボーディの予定としましては、前述した各種講座の2回目を計画しておりますとともに、夏季休業中には「さんすう教室」として、保護者の皆様がお子さまとともに「楽しく学べるさんすう」を予定しておりますので、ぜひご参加ください。



己書幸座



緑茶教室

防犯訓練

2001年に大阪府の小学校に不審者が侵入し、痛ましい事件がありました。本年5月にも立川市の小学校内で男2人が暴れる事件がありました。このように幼稚園や学校に不審者が侵入する事件は、たびたび発生しています。

こうした事案に対して、教員はどのように子どもたちを守る安全に避難させることを目的として、本園では「防犯訓練」を実施しており、すずか幼稚園では7月3日(木)に、第2すずかきしおか幼稚園では7日(月)に、不審者が宅配業者を装って園舎内に入ってくるということを想定した訓練を実施しました。

園舎内に不審者が侵入したと判断した場合は、発見者が「防犯ホイッスル」を鳴らしながら不審者の動きを止める行動を取ります。不審者が動き回る場合には、不審者が教室の前を通った場合には教室の「防犯ホイッスル」を鳴らすとともに、子どもたちを通路から遠ざけて不審者を見ないように身を守るように指示します。職員室では放送を入れて事態を知らせるとともに、「サスマタ」やその他の防具を持って不審者と対峙し、子どもたちから遠ざけながら取り押さえを図ります。

不審者の動きを止めることができたなら、子どもたちを不審者から遠ざけるとともに子どもたちの安全を確保できる場所へ避難させます。

このような防犯訓練を毎年実施することにより、子どもたちの安全を確保していきたいと思います。



身を守るということ

野生動物は弱肉強食の世界だ。肉食獣に襲われて食べられてしまうかもしれないし、細菌やウイルスに襲われて病気で倒れることもある。あるいは仲間同士で闘うことだってあるかもしれない。とにかく自分で自分の身を守ることができれば生きていけない。この自衛手段と言うのは、それぞれの種によって決まった身の守り方があって、それを母親が子どもに教えるのである。

たとえば、北アメリカにビーバーと言う齧歯目(げっしもく)の動物がいる。この動物は非常におもしろい身の守り方をする。それは、ダムをつくることなのであるが、このダムをつくる技術のすべてを、ビーバーは生まれながらに持っているのでは決していない。このダムのつくり方は、まず鋭い前歯でポプラの木を切り倒し、それをさらに三十センチくらいずつに短く切って川の中に沈め、その上に泥を乗せて、川の水をせきとめる。こうしてできたプールの中に、やはり木と泥を用いて安全に生活するための巣をつくるという、人間も驚くような建築の技術を駆使するのである。

これほど高度な技術は、子どもが親と一緒にいる時期に、親がつくるのを子どもも手伝うという形で習得していくのであって、その時期にたまたま人に飼われたとしたら、ダムのつくりえないビーバーになってしまう可能性がある。

(元上野動物園長 中川志郎 著「パンダは舐(な)めて子を育てる」より抜粋)